

【(4) 授業の導入】

①－2 「小テスト等を活用している」

《つまずきの背景》

C 記憶力の弱さ、M 自己コントロールの困難さ、N 注意の持続の困難さ

《解説》

授業の最初（5分程度）に小テスト等を実施することで、子どもは他教科や休み時間との切り替えができ、めりはりを付けて授業に臨むことができます。集中力を高めることにもつながり、授業に参加する意欲が高まります。

学級の中に、感情や行動の抑制が難しかったり自分の行動を振り返ることが困難であったりする子どもがいる場合には、小テストに臨む他の子どもの姿をモデルとすることで、徐々に行動の切り替えができるようになります。

小テスト用の紙（A5程度のもの）を授業の前に配っておき、授業が始まったらすぐに小テストを始めるようにすると移行がスムーズになります。チャイムとともに学習に向かう姿勢を作っておくと、徐々にチャイムとともに小テストが始められるようになります。

【工夫点】

- ・ 計算問題を行う。（小 工夫例 25）
- ・ 漢字テストを行う。（小 工夫例 25）
- ・ 5分間読書を行う。（中高 工夫例 25）
- ・ 文法テストを行う。（高）

◆工夫例 25 「計算問題を行う」「漢字テストを行う」「5分間読書を行う」



《小・中・高等学校》

子どもが気持ちを切り替え、集中力を高め学習に向かう姿勢を作っておくことで後の授業展開がスムーズになります。よく用いる方法としては、計算問題、漢字テスト、5分間読書などがあります。計算問題や漢字テストは小学校でよく用いられる方法です。また、中学校、高等学校では、5分間読書を取り入れることもあります。

小テスト等を行うことのもう一つのメリットは、子どもの理解度を教師が把握できるという点です。それを把握することで、その後の授業展開に生かすことができます。